

「特別の教科 道徳」授業のつくり方

授業づくりの4つの鍵



道徳的価値の意義

指導する道徳的価値の意義の理解

児童生徒の実態

ねらいとする道徳的価値についての児童生徒の実態把握

教材の効果的な活用

教材を効果的に活用する学習指導過程の構想

児童生徒と教師の評価

指導と評価の一体化

「道徳的価値の意義」「児童生徒の実態」「教材の効果的な活用」の3つの要素について考えて、教師の指導の意図を明確にします。この指導者の意図が授業のねらいとなり、評価につながっていきます。



道徳的価値の意義



学習指導要領解説をよく読み、小・中学校のそれぞれの発達段階において、授業のねらいとする道徳的価値の意義を理解し、どのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのか考えましょう。

(例)「B 親切、思いやり（思いやり、感謝）」の場合

道徳的価値についての教師の考え	
内容項目の発展性・特質	児童生徒の発達段階
・思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けること。	
【小学校第1学年及び第2学年】 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。	・自分中心の考え方をすることが多いが、様々な人々との関わりの中から、相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。
【小学校第3学年及び第4学年】 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。	・様々な人々との関わりが次第に増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになる。 ・一方、他の人々の感じ方や考え方が自分たちの感じ方や考え方と同様であると思いがちである。
【小学校第5学年及び第6学年】 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。	・自他を客観的に捉えることができるようになり、相手の置かれている状況を自身に置き換えて想像できるようになる。
【中学校】 思いやりの心をもって人と接するとともに、 <u>家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。</u>	・人間愛に基づく他者との関わりをもつことの大切さを理解できるようになる。 ・学年が上がるにつれて、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人の善意や支えに気付くことができるようになる。一方で、家族など日常的に接している人々に対し、支えられていることをありがたいと感じつつも、疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさを感じたりするようになる。

※道徳的価値の意義の理解をおろそかにし、教師自身の道徳的価値観を目指した授業は、価値観の押しつけ授業になってしまっておそれがあるので注意しましょう。

児童生徒の実態



児童生徒に全教育活動を通して指導する中で、どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが問題として残されているかを把握しましょう。

(例)「B 親切、思いやり（思いやり、感謝）」の場合

- 班活動や当番活動の中で、困っている友達に対して手を差し伸べたり、優しい声をかけてあげたりする姿が見られる。
- 生活科の学習や、下校グループの取組から、自分よりも幼い人への優しい行動について学んでいる。
- 1年生の時の道徳科の学習で、親切にしてあげた時の気持ちよさを学んでいる。
- △親切にする相手が限られる。
- △自分の都合で、困っている人がいても見て見ぬふりをする。



教材の効果的な活用



※「主体的・対話的で深い学び」については「つばさ 51号」に、「道徳科に生かす指導方法の工夫」については「つばさ 50号」に詳しく掲載してあります。



年間指導計画に基づき、教科書を基本としながら、教材を効果的に活用していきます。児童生徒にとって価値ある授業をどのように展開するかということについて、児童生徒の実態に重ね合わせながら考えていきましょう。

●学習指導過程を構想するには、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から、次の点に注目して構想します。

・焦点を当てる道徳性を構成する諸様相

【道徳性を構成する諸様相】

道徳的 判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように、対処することが望まれるかを判断する力。

道徳的 心情

道徳的価値の大切さを感じ取り善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。人間としてよりよい生き方や善を志向する感情であるといえる。

道徳的 実践意欲 道徳的 態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。道徳的実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働き。道徳的態度は、それらに裏付けされた具体的な道徳的行為への身構え。

・道徳科の目標に示された学習活動

- ・問題意識をもつ。
- ・多面的・多角的に考える。
- ・自己の（人間としての）生き方についての考えを深める。
- ・自分との関わりで考える。
- ・自らを振り返る。

・道徳科に生かす指導方法の工夫

- | | |
|---------------------|------------|
| ア 教材を提示する工夫 | イ 発問の工夫 |
| ウ 話合いの工夫 | エ 書く活動の工夫 |
| オ 動作化、役割演技など表現活動の工夫 | カ 板書を生かす工夫 |
| キ 説話の工夫 | |
- （「学習指導要領解説 第4章指導計画の作成と内容の取扱い」より一部抜粋）

児童生徒と教師の評価



※「評価の具体的な方法」については「つばさ 49号」に詳しく掲載してあります。



評価とは、児童生徒にとっては、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくもの、教師にとっては、指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料であることを意識し、「指導と評価の一体化」を目指しましょう。

【児童生徒の評価の視点】

- ・一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。
- ・道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深めているか。

※学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握

指導の工夫により、表出した児童生徒の学びの姿を評価。学習状況は当然指導によって変わる！

【教師の評価の観点例】

- ・学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
 - ・発問は、児童が多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- （「学習指導要領解説 第5章道徳科の評価」より一部抜粋）